

7. ジベレリンペースト剤塗布によるナシの側枝更新法（技術）

[要約]

側枝候補枝を得るには、満開7～14日後に水平に近い方向に出ている短果枝を選び、新梢と旧年枝との境界付近の外周片面にジベレリンペースト剤100mgを塗布処理する。

研究室名	中山間農業研究室	連絡先	0868-57-2758
------	----------	-----	--------------

[背景・ねらい]

ナシを栽培する際、常に側枝更新を念頭に管理する必要がある。側枝候補枝は切り返しせん定によって伸長させる場合が多いが、目的とした位置に強勢な枝が出ない場合がある。そこで、短果枝へのジベレリン処理によって、側枝候補枝の形成が可能かどうかを検討する。

[成果の概要・特徴]

1. 短果枝上の花（幼果）を処理直前に除去し、満開7～14日後に短果枝の新梢と旧年枝との境界付近にジベレリンペースト剤を100mg程度（チューブから出したときの長さ3mm程度）塗布する（図1）。
2. ジベレリンペースト剤の「新高」短果枝への処理は、再伸長が促進され、側枝候補枝として適当な長さの新梢が得られる（図2）。
3. ジベレリンペースト剤は処理部位への片面のみの塗布であっても全面塗布の場合と同程度の処理効果がある（表1）。
4. 処理する短果枝の発角度が異なっても、得られた側枝候補枝の形質には差が認められないため、折損が少なく誘引しやすい水平に近い短果枝に処理する（表2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 塗布処理の効果は「新高、幸水、豊水、おさゴールド、南水、愛宕」で確認している。
2. 弱勢な樹では新梢の伸長促進効果が劣る。
3. 腋花芽の伸長促進効果は確認していない。

[具体的データ]



図1 ジベレリンペースト剤の塗布位置と方法

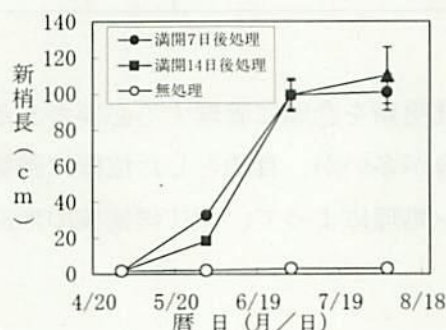


表1 ジベレリンペースト剤処理方法がナシ「新高」の新梢形質に及ぼす影響

処理区	再伸長率 (%)	新梢長 (cm)	基部径 (mm)	全芽数	花芽数	花芽率 (%)
全 面	100	75.9	16.5	16.6	6.8	40.5
片 面	100	78.0	16.5	16.1	7.0	41.3
t検定 ^z	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.

^z n.s.は5%水準で有意差がないことを示す

表2 側枝からの短果枝発生角度がジベレリンペースト剤処理後の新梢伸長と誘引時の新梢折損に及ぼす影響

処理区	発生角度 (°)	再伸長率 (%)	新梢長 (cm)	基部径 (mm)	折損率 ^z (%)
水平	7.1	100	93.3	16.7	7.1
直立	74.2	100	97.5	18.4	25.0
t検定 ^y		n.s.	n.s.	n.s.	

^z 約45度に誘引した場合の折損率

^y n.s.は5%水準で有意差がないことを示す

[その他]

試験研究課題・事業名：ナシ短果枝へのジベレリン処理による側枝候補枝、予備枝の形成

予算区分：県単

研究期間：平成16～19年度

関連情報等：平成18年度園芸学会（要旨）

平成18年度試験研究主要成果「ナシ短果枝のジベレリンペースト剤塗布による新梢伸長促進」